



# 館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 4 月 20 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

## モグラを研究する元山形大生 山沢泰さん(24)

2025. 4. 19 山形新聞 土曜コラムマルチアングルより

モグラは地面にトンネルの出口を作りません。地中のトンネル内で完全な地下生活を営む生物です。ゆえに、野生の哺乳類の中でも人間に近い場所にいる生物にもかかわらず、生態に関する情報が少なく、繁殖のために雄と雌がどのように出会うのかもいまだ不明なのです。

ここに、モグラのとりこになった若者がいます。秋田市出身で、山形大学理学部を昨年卒業した山沢泰さん(24)です。執筆した卒業論文が認められ、日本生態学会の英文誌に掲載されました。テーマとしたのが、山のモグラの生息状況。山林は地形が複雑なうえ、地表も植物に覆われているため、調査が難しくどこにどれだけ生息しているのか分かっていませんでした。そこで山沢さんは、市内や周辺の山の登山道を歩き、モグラのトンネルをさがしました。千歳山、富神山、盃山、東黒森山、白鷹山、尾花沢の「ブナ共生の森」など、調査ルートは総延長は9214メートルに及びます。山沢さんは底の薄い靴を履き、足の裏に伝わる感触などを手掛かりにトンネルをさがしました。見つけたら一部を崩して埋めまです。モグラはすぐにトンネルを修復する習性があるので、翌日に修復されていれば、モグラが使用しているトンネルとしてカウントします。

調査の結果、先ほどの全ての山に生息していること、そして餌であるミミズが多い場所ほど生息密度が高いことが明らかになりました。また、森林の植生によっても異なり、ナラ林では高く、杉の人工林では低いこともわかりました。地下にはモグラより大きな生物はいません。モグラは肉食で食物網の最上位に位置しているため、他種に大きな影響を及ぼ



します。謎めいたモグラが、土壌の生態系の鍵を握っているのです。現在山沢さんは、富山大学大学院で研究にはげんでいます。新たな発見を富山から届けてほしいものです。

## 「クロネコヤマトの宅急便」の配達車

2025. 4. 19 朝日新聞より

かつて街中を駆け回っていたのに近年ぱったりと見なくなった、あの「クロネコヤマトの宅急便」。ヤマト運輸と言えば、あのツートンカラーの配達車が目に浮かぶ方も多いのではないのでしょうか。ところが、最近見なくなっと思いませんか。あのトラックの正式名称は「クイックデリバリー」と言います。



1982年にトヨタ自動車が生産を始め、「クロネコヤマトの宅急便」のCMにも登場していましたよね。ヤマトの「顔」であり、事業を支える足でした。実はこの車2016年に生産が終了しておりまして、ヤマトでも引退したそうなのです。この車誕生の理由はというと、ドライバーが車道に降りずに車内を移動して荷物の出し入れができる「ウォークスルーバン」を作れないものだろうかという社員の意見と社長の強い希望があったからだそうです。宅急便のサービスが登場した1970年代、後部跳ね上げドア式のバンが主流でした。荷物量の増加に伴ってドライバーの乗降回数が増えると、車道から乗降する際の危険やドアを開閉する負担をどう減らすかが課題だったのだそうです。そこで、福岡の支店で有志のプロジェクトチームを結成し、廃車とベニヤ板で、何と試作品を作ってトヨタに協力を申し出たのだそうです。そうして1981年初の試作車ができました。軽い力で開閉できるスライドドア。腰を曲げずに移動できる高い車高。どれもドライバーに好評でした。

しかし、環境性能が高い車両の導入を進めるヤマトの方針と、ネット通販やクール便の普及による荷物の大型化、多様化に対応しきれなくなったことで、終了となりました。現在はトヨタグループの日野自動車がウォークスルータイプの電動トラックを開発しているそうです。